

令和七年度 推薦入学試験問題 現代の国語・言語文化〔現代文のみ〕

受験番号

氏 名

◎次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

作家であり、精神科医でもある^{ははるを はうやい}常木蓬生によれば、①ネガティブ・ケイパビリティとは「どうにも答えの出ない、どうにも対処しようのない事態に耐える能力」、あるいは「性急に証明や理由を求めずに、不確実さや不思議さ、②懐疑の中にいることができる能力」である。
(中略)

ネガティブ・ケイパビリティという語は、もともと英国の詩人、ジョン・キーツが弟たちに③宛てた手紙の中ではじめて使った造語である。この手紙の中でキーツは、ネガティブ・ケイパビリティという言葉で「不確実、不思議、未解決の状態を受容する能力」「なんだかわからない不安定で④曖昧な状態に居続ける能力」、さらには「不確実な状態に苛立つて、安易に事実や理性を追いかけたり、科学的な確実性の中に逃げ込まない能力」を意味するものとして用い、⑤ブロンクスウィークスピアが偉大な創作を成し遂げ得たのは、まさにこのネガティブ・ケイパビリティが高かったためと指摘する。創作のプロセスもその代表例であるが、先の見えない不安定で不確実な状況に身を置き続けるというのは確かにしんどいことである。そのような状況に居続けるくらいならば、何らかの決定や決断を下すことで、早く楽になりたくなくなってしまう。A、状況の推移を十分に見守らないまま下した決断は、不十分なものである場合も多い。それよりは、不確実な状況に耐えながら持ちこたえ、真に決断すべき段階まで我慢することで、さらなる高みに到達できる、というのがこの概念の骨子である。何らかの決断や決定を行う力がポジティブな能力であるとすれば、それとは⑥ダイシヨウテキに、決断や決定を急がず、目の前の状況に向き合いつつ、不確実な状態に耐える力を「能力」として肯定的に位置つけたところが肝であろう。

このネガティブ・ケイパビリティという概念は、その後、精神分析の領域で注目を集めた。この能力は精神分析家が症状の判断を性急に行うことなく、先入見なしに患者と向き合い、

それを通じて患者に対するより深い理解と共感を得るために必要なものと考えられたのである。このような経緯により、これまでこの概念は主に芸術・医療・精神療法、さらには教育・保育の領域において注目され、その応用がなされてきた。

他方、その数は必ずしも多くはないものの、海外ではこの概念がHR¹や組織研究などにも応用されている、たとえばシンプソンらは、組織のリーダーに必要な能力を、ネガティブ・ケイパビリティの概念に基づきながら論じる。組織のリーダーには、何をなすべきかわからないような困難な状況において、安易に防御的な判断を下すことなく、本当に決断を下すべき時まで忍耐強く待つことが必要となる場合もある。しかしリーダーというポジションには、積極的に決断を下すことで周囲を引っ張っていくという「ポジティブ・ケイパビリティ」の発揮が一般的には期待される。そのような期待に抗って、あえて不安の中で時機を待つというネガティブ・ケイパビリティもリーダーには時に求められるのであり、そうすることではじめて、早急な判断をしては不可能だった新しい④洞察や気づきが可能となり、結果的により高いレベルの決断が下せるようになる、というのが彼らの議論である。シンプソンらはネガティブ・ケイパビリティの概念を利用しながら、②取り巻く環境の変化に対して組織のリーダーがいかに対応すべきかを論じているとも言えるだろう。

このネガティブ・ケイパビリティは、危機に対応する際にも必要な能力である。危機というのは、予測したり管理したりすることが可能な「リスク」とは異なり、先の見通しが得づらく、そのためどのように対応すべきか十分にはわからない状態である。B、危機に対応していくためには、必然的に不完全、不確実な状態に居続けねばならず、そのためにネガティブ・ケイパビリティが必要となる。

危機に少しでも適切に対応するためには、危機の最中において、あるいは危機が訪れる前の段階において「最悪の事態を想定しておくこと」の有効性が③しばしば指摘されてきた。状況を⑤楽観視するのではなく、最悪の可能性まで考えておいて、できる限りそれに対する準備を前もって行っておく。それによって実際に最悪の事態が生じてしまったとしても、その被害を最低限のものとすることができる、というのがその効用である。

しかし実際には、このように最悪の状態を想定し、それに準備しておくのはなかなか容易なことではない。東日本大震災の際にも、事前に十分に考えておけなかった④ジシヨウ、すなわち「①」がいくつも生じ、それによって④ジンダイな被害が発生してしまったことは記憶に新しい。

ではなぜ、このように最悪の事態を想定しておくことは難しいのだろうか。その理由の一つが認知の「正常性バイアス」(normalcy bias)だろう。人間には、大きな被害が生じる可能性があっても、「大事には至らないだろう」「自分だけは大丈夫」と考える傾向が存在す

¹ Human Resources の略で、人的資源全般に関係する業務

る。このように、私たちの認知は正常な状態に引きずられやすく、最悪の事態の想定がしばしばおろそかになってしまふ、というのが一つの説明である。

そしてもう一つ、ネガティブ・ケイパビリティが十分でないことも、最悪の事態の想定を難しくする大きな①ヨウインであろう。最悪の事態を想定しないのは、②や③の不足によってそれができないのではない。仮に想定したとしてもその事態にきちんと対処するためのすべが存在せず、問題解決の可能性が見い出せない場合、そのような不安定な状況に耐えられないために、最初からそのような事態は考えないことにしてしまう、というのが④そのメカニズムである。これは「意図的無知」(deliberate ignorance)とも呼ばれるものであり、このような傾向も、適切な危機対応を妨げる一つの重要なヨウインと言えるだろう。

出典：有田伸『日本労働研究雑誌』第六三巻第四号、二〇二一年。(作問のため省略した箇所がある)

問一 傍線①～③の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。

問二 傍線④～⑥のカタカナについて、正しい漢字を書きなさい。

問三 傍線⑦「ネガティブ・ケイパビリティ」が精神分析の領域で注目を集めた理由を、本文中より抜き出し、記述しなさい。

問四 A・Bの接続詞として、適するものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

① ア しかし イ だから ウ でも エ ところが

② ア それでも イ けれども ウ さらに エ したがって

問五 傍線②「取り巻く環境の変化に対して組織のリーダーがいかに対応すべきか」につい

て、本文の内容を踏まえて、記述しなさい。

問六 傍線③「しばしば」の品詞を次から選び、記号で答えなさい。

ア 形容詞

イ 名詞

ウ 動詞

エ 副詞

問七 傍線④「そのメカニズム」とあるが、この内容を説明しなさい。

問八 ① にあてはまる内容を、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 許容内

イ 許容外

ウ 想定内

エ 想定外

問九 ②、③ にあてはまる内容を、次のア～カから選び、それぞれ記号で

答えなさい。

ア 資産

イ 食料

ウ 時間

エ 情報

オ 能力

カ 健康

問十 問題文を読み、内容に適する表題（タイトル）を付けなさい。

令和 7 年 静岡済生会看護専門学校 推薦入学試験 問題用紙		
試験科目	受験番号	氏 名
数学 I ・ A		

【注意事項】

- ・ 解答は、別紙の解答用紙に記入してください。
- ・ 計算用紙を利用することができます。ただし計算用紙も回収します。

I. 数と式に関する次の設問に答えなさい。

(1) 以下の式を計算しなさい。

$$3xyz(x + 4y - 2z)$$

(2) 以下の式を因数分解しなさい。

$$9y^2 + 3xy - 2x - 4$$

(3) 以下の【ア】と【イ】に該当する条件を①～④の中から選びなさい（解答用紙には選択肢の番号を記入すること）。

$x < y$ は $x^2 < y^2$ であるための【ア】

$x < 2$ は $x \leq 2$ であるための【イ】

- | |
|---|
| ①必要十分条件である
②必要条件であるが十分条件ではない
③必要条件ではないが十分条件である
④必要条件でも十分条件でもない |
|---|

(4) $x = \frac{1+\sqrt{5}}{2}$ のとき、 $x^2 - x - 1$ の値を求めなさい。

II. 関数と 2 次方程式に関する次の設問に答えなさい。

(1) 以下の 2 次関数において、定義域が $0 \leq x \leq k$ であり、定数 k が $2 \leq k < 4$ であるとき、この関数の最大値と最小値を求めなさい。なお $k > 0$ であるとする。

$$y = x^2 - 4x + 1$$

(2) 以下の2次方程式を解きなさい。

$$-\frac{1}{2}x^2 - \frac{3}{2}x + 10 = 0$$

(3) すべての実数 x について以下の2次不等式が成り立つ場合、定数 a の範囲を求めなさい。

$$x^2 + (a+3)x - a > 0$$

Ⅲ. 次の設問に答えなさい。

(1) ある病院の病棟に勤務する看護師が7人おり、うち男性の看護師は3名、女性は4名だった。この病棟の看護師から翌日の夜間勤務従事者を3名選ぶとき、女性が1名だけ入っている場合の選び方は何通りあるか求めなさい。

(2) 箱の中に赤、白、黒のカードが4枚ずつ入っており、各色のカードにはそれぞれ1から4までの数字が1つ書かれている。いま、箱の中にある12枚のカードから3枚を取り出したとき、全部同じ色のカードになる確率を既約分数で求めなさい。

(3) 右図の三角形 $\triangle ABC$ において、

内心を O 、内接円と辺 AB 、

AC 、 BC の接点をそれぞれ、

P 、 Q 、 R とする。いま、線分

$AB=10$ 、 $AC=9$ 、 $BC=$

13 であるとき、線分 AP を求

めなさい。

